

## 評価

自己評価A と外部評価 の評価区分	きわめて良好	自己 評価B の評 価基 準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

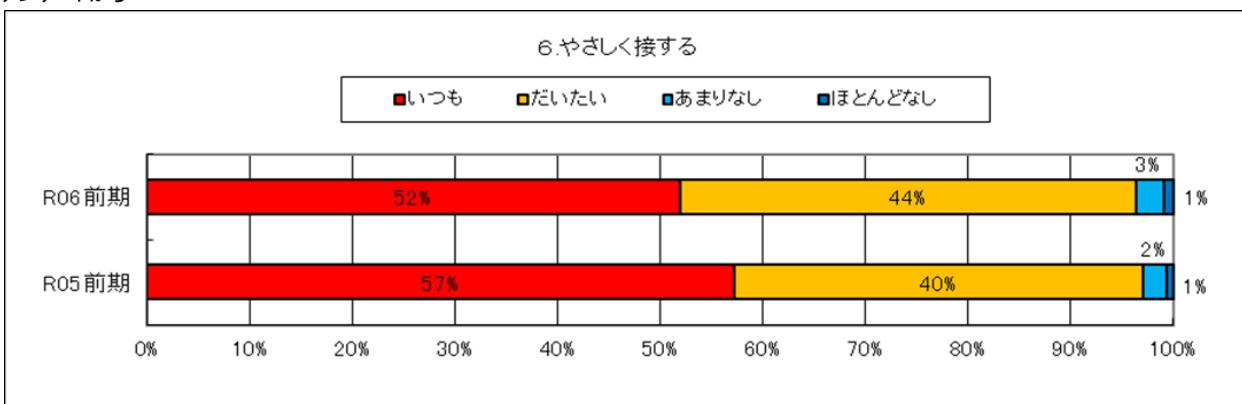
## II 思いやりの心

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント	
相手の立場を思いやり、仲良く助け合って生活しようとしている。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好	①「学級力アンケート」を通してよりよい学級づくりを一層努力してほしい。②学級の一員という自覚を育てることは常に大切にしたいことである。③活動への責任の自覚とやりがいが味わえるような支えをしっかりとお願いしたい。④高学年児童として下学年とのかかわりは自己有用感をもてる人間づくりのよい機会と捉えたい。自信を持ってかかわっていけるように事前・事後指導も大切にお願いしたい。	
	年度				
【前期（一年度）】		<p>①新年度を迎え、新しい学級になじめなかったり、新しい仲間との関係をつくることに困難を感じ、孤立したりする姿が見られたりと、集団での学びにも影響が出ているのではないかと考えられる。そのため、学習集団づくりの一つとして、『学級力アンケート』を活用することにした。</p> <p>②学級では係活動だけでなく、3年生以上は「当番活動」にも取り組んでいる。係活動は、学級をよりよくするために、チームで話し合い工夫しながら活動していくことで創造性や実行力が育っていくことが期待される。また、『当番活動』は、一人一役になることが多く、学級になくてはならない仕事に取り組むことで、責任感が生まれると考えられる。学年によっては、当番活動に変化を付けながら持続的に仕事に取り組めるように工夫している。この様々な活動が、学級から委員会活動へ広がり、学校をよりよくする活動へつなげられるように工夫していきたい。</p> <p>③今年度から委員会活動を、親しみやすいネーミングに変更し、5・6年生のみの活動にした。新設された委員会もある中、4月当初から内容や取り組み方を工夫して、主体的に活動している姿が多く見られる。放送の呼びかけだけでなく、「いちょう集会」で活動を紹介する時間を設けることで、リーダーシップの育成にもつながっていると思う。また、他の委員会の活動にも関心をもってもらうために、代表委員会で話し合う内容を事前に知らせ、一緒に問題を解決することで、複数の委員会が一緒に活動する場面も見られた。</p> <p>④縦割り班活動（絆っ子タイム）では、遊びや読み聞かせを中心とした活動にした。6年生の事前準備や計画により、スムーズに仲良く活動できている。この活動を通して、異学年交流での自己有用感を育てる機会にしたいと考えている。</p> <p>〈後期の取組〉</p> <p>①学級を見つめなおす『学級力アンケート』から、学級内での課題やよさを確認していく。課題について、学級力を上げるための取り組みを話し合い、その後また、アンケートをとるという活動を繰り返しながら、学級力を上げていく。学年によっては、掲示場所を決めて、見える化し、意識を継続する取り組みを行っている。さらに、よい取り組みについて、他の学年とも共有していく。</p> <p>③4年生の委員会への加入が遅くなかったことで、上級生の活動をじっくり見て、選ぶことができればと思う。また、代表委員会を活用して、委員会同士のつながりを設けたり、委員会同士の垣根を越えたりと協働した活動ができればと思う。</p> <p>④これまでコロナ禍の影響で、縦割り班活動が減り、上級生として異学年交流の進め方やトラブル対応の仕方などを学べる機会が少なかった。担任の事前指導に加え、縦割り班担当の教員がフォローすることで、高学年の自己有用感を育てていきたい。また、同時に各学年担任の事前事後指導を充実させ、下級生のフォローアップも育てていく。</p>	<p>①「学級力アンケート」を通してよりよい学級づくりを一層努力してほしい。②学級の一員という自覚を育てることは常に大切にしたいことである。③活動への責任の自覚とやりがいが味わえるような支えをしっかりとお願いしたい。④高学年児童として下学年とのかかわりは自己有用感をもてる人間づくりのよい機会と捉えたい。自信を持ってかかわっていけるように事前・事後指導も大切にお願いしたい。</p>		
【年度（一次年度）】					

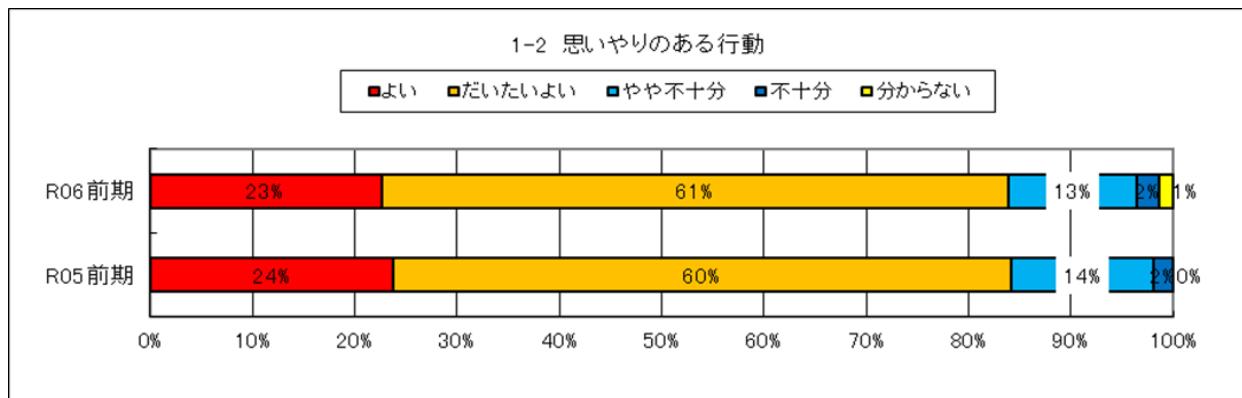
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 一人一人のよさの発揮	(4)一人一人に居場所と活躍の場のある学級	学級の係活動、当番活動の充実	3	
		学級における自己肯定感・自己有用感を高める取組		
4 集団生活・集団活動	(5)他とかかわる諸活動の充実した学校	児童会活動・クラブ活動における積極的な異学年交流	4	
		縦割り班活動の充実(絆っ子タイム等)		

※学校教育アンケートから

(児童)



(保護者)



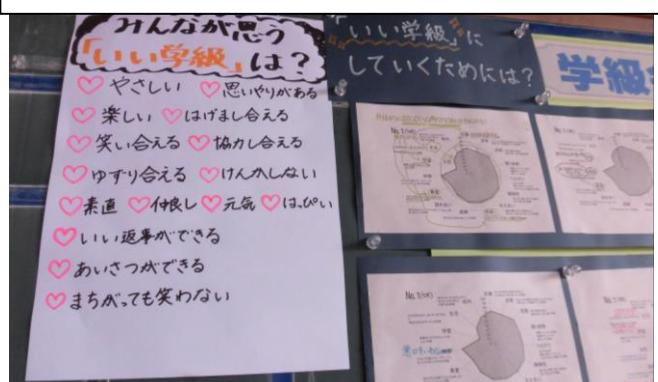
いちょう集会の時間を金曜日の朝に設定した。集会の内容を子どもの活躍が見えるものにするために、「各委員会からの連絡」での呼びかけを行っている。



縦割り班の班長を中心活動している「縦割りタイム」。低学年のお世話をしたり、楽しく活動できるように、班員をまとめたりする姿が多く見られる。



「児童総会」で、初めて縦割り班の話し合いを行った。テーマは、「メディアとのつきあい方」について。その後、メディアコントロールチャレンジにつなげることができた。



学級力アンケートを活用して、学級のよいところに気付くきっかけになった。各グループで話し合いを行った学級もあり、学級力をあげようと取り組むことができた。